

達成度

- 5 目標を完全に達成した。
- 4 目標を概ね達成した。
- 3 目標を一部達成した。
- 2 目標をほとんど達成できなかった。
- 1 目標をまったく達成できなかった。

参事の目標（平成20年度）自己評価書

総務担当参事 水藤正平

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p>1 個性豊で魅力と活力にあふれたまち「ふるさと酒々井」の実現に向けて、政策の調整及び進行管理に取り組みます。（総務部門全般、主として経営企画課、財政課）</p> <p>（1）町の財政状況は、依然として厳しい環境にあります。第4次総合計画第3期基本計画に掲げた施策について、計画的な事業進行を図るため、事業を精査するとともに、国県補助金及び優良な地方債を活用するなど財源確保を図り、実施計画に位置付け、事業の推進に努めます。併せて、進行状況を検証し適正な管理に努めます。</p> <p>（2）政策実現に向けて、町民の理解を得られるよう情報提供に努めます。</p> <p>2 行政組織の見直し、職員の適正配置（総務課）</p> <p>少子高齢化や多様化する社会の変化の中で、住民サービスのあり方について検討する一方、人件費の抑制を図る観点から、平成19年度において組織改編を行ったと</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>財政の健全化を図るとともに、中長期的な財政の見通しの中で、町の自立プロジェクト事業を展開していくこととしています。3年間の主要事業としては、酒々井小学校屋内運動場改築事業、小中学校の耐震化事業、JR酒々井駅のバリアフリー化事業、ICアクセス道路整備事業の推進等を予定しています。</p> <p>また、子育て支援や保健福祉分野など、ソフトな事業についても改善を図っています。</p> <p>なお、中川調節池は議会の同意が得られていません。</p> <p>第3期基本計画に掲げる事業・施策の推進状況や達成度を把握し効率的な推進を図るため、成果目標に対する事務事業評価を行い、ホームページにて公表しました。</p> <p>職員の削減について、58歳となる職員の勧奨退職の協力（4名）を頂くとともに自主退職もあること、また、本年は新規採用を行わないこと等により、人件費の抑制が図</p>

<p>ころですが、平成20年度においても引き続き点検を行い、職員の適正配置に努めます。</p>		<p>ることができました。なお、職員の減に伴い、職員の質を向上させるために、研修を強化しています。</p>
<p>3 予算編成及び財政健全化緊急対策（財政課）</p> <p>町財政は、三位一体改革による町税の増収はあるものの、地方交付税、国庫補助金の削減により、大変厳しい状況にあります。また、経常収支比率については、平成18年度決算において93.8%と、依然として高い水準にあり、今後とも、財政健全化に向けて、あらゆる角度から見直しを行い、簡素にして効率的な行財政運営を図るよう努めます。</p>	<p>4</p>	<p>平成20年秋以降の世界的な経済不況により、一段と厳しい経済環境にあります。比較的町税の落ち込みも少なく、また、国の財政対策により、地方交付税等も確保できること、併せて、行財政改革等の効果もあり、平成21年度当初予算では、学校の耐震化図るとともに、子育てや健康福祉分野にも充実を図ることができました。</p> <p>なお、当初予算ベースで経常収支比率は92.8%となっています。</p>
<p>4 課税客体の適正化及び町税の確保について（税務課）</p> <p>（1）平成21年度の評価替えに向けて、飯積地区を除く市街化区域において、宅地評価方法が「その他の宅地評価法」を採用している区域に、「市街地宅地評価法」（路線価に基づく評価）を導入します。</p> <p>（2）平成19年度において、国の三位一体改革により所得税から住民税へと税源移譲が行われています。これらのことから、滞納額が増加することが懸念されますが、税収の確保や税負担の公平性の観点から、滞納額を減らし徴収率の向上に努めます。</p>	<p>5</p> <p>3</p>	<p>固定資産税の課税について、きめ細かな評価を行うため、市街化区域における旧市街地において、3年間の準備期間を設け、「市街地宅地評価法」（路線価に基づく評価）を導入しました。</p> <p>平成19年度の個人町民税の徴収率は、現年度課税分では前年比0.5%の減、過年度分では1.2%の増、合計では0.4%の増となっています。また、平成20年度の徴収状況は、滞納処分の強化を図るものの、景気の低迷等も影響し、過年度分で前年度を上回るものの、現年度課税分で下回り、合計でも下回る状況になっています。</p>
<p>5 チャレンジ目標 個別事業1に掲げた、個性豊で魅力と活力にあふれたまち「ふるさと酒々井」の着実な政策実現に向けて、総合調整及び進行管理に取り組みますが、</p>	<p>4</p>	<p>平成20年秋以降の世界的な経済不況により、一段と厳しい経済環境にあります。財政の健全化を図るととも</p>

依然として厳しい財政状況のなかで、効率的な運営とともに、一般財源の確保を図るべく行政改革を含め、歳入歳出をあらゆる角度から検討し、取り組めます。

に、中長期的な財政の見通しの中で、ソフト事業の充実を図るとともに、町の自立プロジェクト事業を着実に展開していくことが重要となります。

このため、財源確保の点からも、行財政改革等のさらに推進するとともに、町民の様々な要望に応えるため町民の協力を頂きながら、まちづくりを推進する必要があります。